



図書館だより

2022年
7月20日発行

秋草学園高等学校 図書館

先月、過去最も早い梅雨明けの発表に驚いたのも束の間、今度は驚くほどの猛暑日が続きました。一旦落ち着きはしたものの、また暑い日が続いていますので熱中症に気をつけながら楽しい夏を過ごしてください。

今日で1学期は修了しましたが、講座や部活動で明日からの夏休みも登校する人が多くいるかと思えます。図書館も7月27日(水)まで平日開館していますので、勉強や読書がてら涼みにきてください。先生方からの夏のおすすりめ本も展示中ですし、夏の長期貸出でこの期間は貸出冊数も10冊に増えています。たくさん利用してください。

本日決定！芥川賞・直木賞を受賞するのは！？

本日、第167回芥川賞・直木賞が決定します。注目すべきなのは賞が創設されて以来初めて、芥川賞候補に選ばれたのがすべて女性作家の作品という点です。その中でどの作品が芥川賞に輝くのか、直木賞と併せて発表が楽しみです。今回はそれぞれの候補作の中から1作ずつ紹介します。ここで紹介した作品が選ばれるかも！？

第167回 芥川賞候補作

小砂川チト『家庭用安心坑夫』・鈴木涼美『ギフトッド』
高瀬隼子『おいしいごはんが食べられますように』
年森瑛『N/A』・山下紘加『あくてえ』

913.6-1 『N/A (エヌエー)』

年森 瑛 || 著 文藝春秋

高校2年のまどかが求めているのは“かけがえのない他人”という存在。そして、ただのまどかとして生きること。そう求めているのに周囲からは別の属性に入れられてしまう。思いとは異なる属性として認識される戸惑い、自分が入れる本当の属性はないのだろうという空虚さ、その中で藻掻くまどかの姿から目が離せない。

第167回 直木賞候補作

河崎秋子『絞め殺しの樹』・窪美澄『夜に星を放つ』
呉勝浩『爆弾』・深緑野分『スタッフロール』
永井紗耶子『女人入眼 (にょにんじゅげん)』

913.6-7 『夜に星を放つ』

窪 美澄 || 著 文藝春秋

主人公を取り巻く複雑な人間関係を描いた短編集。傷ついたり、失ったりの不安定な日常を生きる彼らの哀しさや切なさが伝わってきます。その結末はハッピーエンドとは言い切れないけれど、胸にグッとくるものがあり、涙が滲んでしまう瞬間も。どの物語も星がテーマになっていて、読んでいると夜空を見上げたくくなります。

酷暑の夏には本で“涼”を感じよう

596-7 『空色のクリームソーダ Recipe』

tsunekawa || 著 ワニブックス

クリームソーダ=どこか懐かしさを感じる緑色のメロンクリームソーダ。そのイメージがこのレシピ本を開いた瞬間変わります！青・赤・黄とレシピごとに色を変え、フルーツやゼリーで彩りを増したお洒落なクリームソーダは、眺めるだけで爽やかな気持ちになれます。

B933-7 『オリエント急行の殺人』

アガサ・クリスティー || 著 早川書房

本作はミステリーの女王と呼ばれるアガサ・クリスティーの代表作の1つ。雪で立ち往生したオリエント急行の中で発見された乗客の刺殺体。乗客全員にアリバイがあるが、外部から侵入者があった形跡もない。犯人の使った大胆かつ衝撃的なトリックを名探偵ポワロは暴けるのか！？

新着コーナーの気になる本

518-1 『SDGs時代の食べ方』

井出 留美 || 著 筑摩書房

食べられるのに捨てられる食品は、なんと世界で13億ト。その一方で世界では何億もの人が飢えています。そのような矛盾がなぜ起こるのでしょうか。また食品ロスは環境への負荷もかけています。未来のために自分ができることは何か、知識を増やして考えてみませんか。

913.6-1 『奇跡集』

小野寺 史宜 || 著 集英社

小さな偶然が重なって起こる奇跡を収めた短編集。主人公全員に共通するのは電車の同じ車両に乗り合わせていたこと。それも奇跡の1つですが、その先に待つ奇跡は人それぞれ。彼らの人生の転機になるかもしれない7つの奇跡の瞬間を見届けてみませんか。

司書の今月はこの本読みました

「大学はジャングルだ」、京都大学総長時代の山極さんの言葉です。霊長類学者である彼は、観察のため野生のゴリラの群れに入って、1頭の不格好なゴリラとして留学してきたそうです。そうして得たゴリラの視点で、私たち人間社会にアドバイスをしてくれているような本、B469-7 『ゴリラからの警告』山極寿一 || 著 毎日新聞出版を読みました。冒頭の言葉は、総長になったばかりの自分自身に向けたものですが、将来大学生活を送る皆さんにも役立つ内容だと思いました。ジャングルで行方を見失わないよう、入る前の準備にどうぞ。【鈴木】